



TITLE:

北米旅行記

AUTHOR(S):

山本, 一清

---

CITATION:

山本, 一清. 北米旅行記. 天界 1934, 14(154): 155-157

ISSUE DATE:

1934-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165474>

RIGHT:

## 北 米 旅 行 記

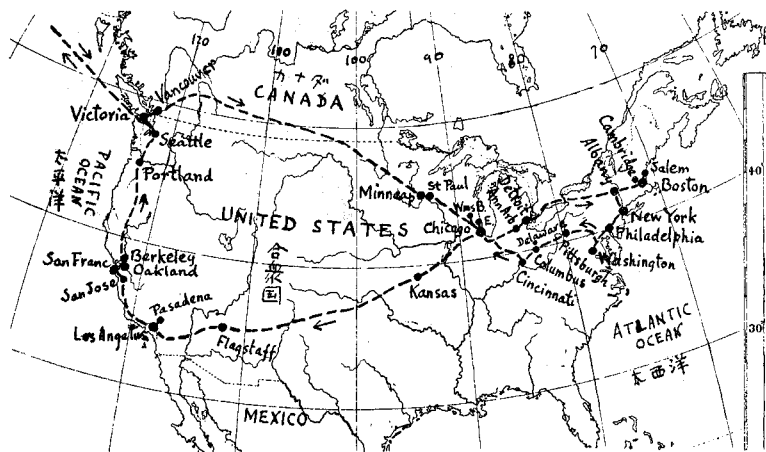
## 山 本 一 清

( 23 )

1933年七月九日午後6時5分、Pittsburgh 着、Seventh Avenue Hotel といふのに宿る。市の中央部であるが、ごく古風な宿である。始めて来た市街なので、未だ日が暮れるまで時間もあるので、あちらこちら散歩に出かける。

アレガニ山脈を今越えて来たばかりの土地だから、市の内外に丘陵が多く、其の中に Allegheny 河と Monongahela 河とが合流して来て、市内で改めて Ohio 河となる。地勢は一寸わが京都に似てゐる——と思つたら、果して、市内に「インクライン」と呼ぶ「ブルカ」が二つ三つある!!

滞在は明日だけで、其の間に天文臺と Fecker 會社とを訪問しなければならぬので、散歩かたがた道路を覚えておこうと思ひ、「六條大橋」を越え、Perryssville 街行きの電車で、元の大學あたりを彷徨する。番地によつて Fecker 會社の練瓦建を見つけたが、有名なのに似ず、貧弱なのに驚く。つと、隣りの家の主人に呼び止められ、暫時其の家に入つて、Brashear 以來の望遠鏡物

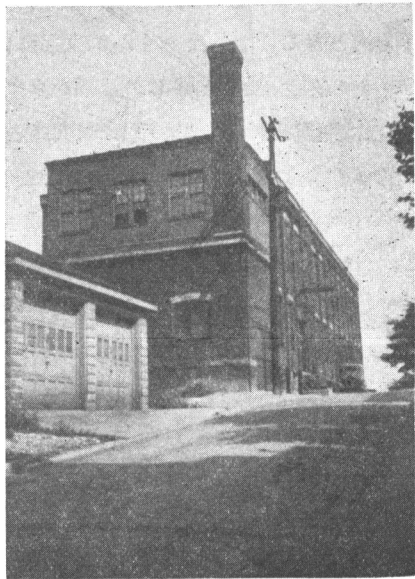


1933年5—7月の北米旅行順路

語りを聞く。又、二十年も前までは同じ敷地に大學と其の天文臺があつた由、案内書にも書いてあるので、そんなことなど種々聞く。天文臺は今はズツと街はづれの Riverview Street に移つて了つた。

（ 24 ）

翌七月10日、朝9時頃、昨日知つて置いた道をたよりに、Fecker 會社を訪ねた。建物は貧弱だと思つてゐたが、入つて見ると、可なり廣くて、中には、二階から地下まで、職人たちが二三十人も元氣よく働いてゐる。主人 J. W. Fecker 氏は、先日 Chicago や Yerkes 天文臺の會合で會つて來訪を約して置いたので、萬事都合が好い。十四年前、Brashear 時代にわが京都大學天文部に口径25センチの反射鏡を買ひ求めたこと話し出して見ると、Fecker 氏はチャンと其れを覚えてゐて、親しげな顔をしながら、尙ほ、キクトリヤや其の他の天文臺へ納入した大型の機械の寫眞など見せてくれた。其れから、氏は階上階下の各工場を案内された。設計室、研磨室、金工室、試験室組立て室等々。目下此の工場にはハーワード大學のオリクリヂ出張所のために口径 155 糎の大反射望遠鏡が殆んど完成の域にあり、又、フィラデルフィアのフランクリン



Fecker 會社工場

學院天文部のため、口径60糎のものが製作されつつあつた。

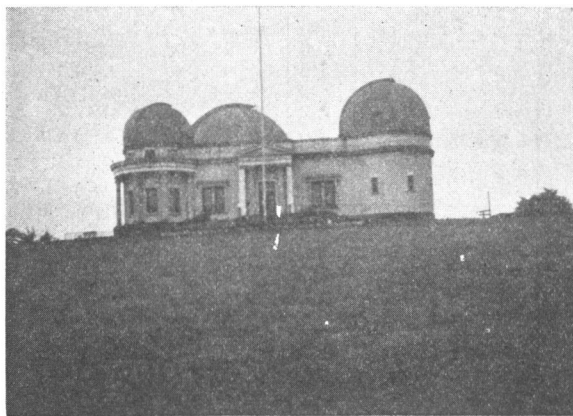
（ 25 ）

10時過ぎ、天文臺へ行くため工場を辭去する。Fecker 氏は親切に自車で自分を Riverview 街の天文臺まで案内し、臺長 Jordan 氏が不在だつたので、次席 K. Burns 氏に紹介の勞をとられた。

この Pittsburgh の“Allegheny 天文臺”は、創立は1859年で、可なり古く、

元は Fecker 工場に近い Perrysville 街の丘上にあつたのだが、1910年に、發展し行く市街の烟塵を避けて今の地に移つたのである。土地は Pittsburgh 市の北半部をなす Allegheny 市の一部、Allegheny 河の流れに取り囲まれてゐる丘の上であつて、大小三つのドームを持つ建物である。移轉當時は F. Schlesinger 博士(今は Yale 大學天文臺長)が臺長として Yerkes から來任し、口径76糎寫眞式屈折望遠鏡といふ珍しい優秀機を以つて、恒星視差の觀測プログラムを立て、其の後、H. D. Curtis 博士(今は Aun Arbor 天文臺長、天界第152號第72頁を見られよ)が來任されたが、一昨年 Curtis 氏が去られてからは、首席の Jordan 氏が臺長に昇任した。

Burns 氏は以前から分光學の専門家として名を知られてゐる人である。此の日も、氏は最近の氏自身の赤外光線に關する業績など暫く自分に話された後、例の76糎の Thaw 望遠鏡其の他を案内され、最後に寫眞板測定室へ連れて來て Daniels 氏と Miss Crissman 女史とに紹介された。Daniels 氏は寫眞板測定について現に此の天文臺で實行してゐる方法と特徴とを説明され、尙ほ之れまで専ら室内で測定作業に當られた。女史の熟練と熱心とをたたえられた。



アレガ＝天文臺

正午になつたので Burns 氏の宅へ招かれて、家族の人々と共に午餐の卓につく。愛らしい子供たちとの談笑が愉快である。七つ位の男兒君、自分の顔や服裝を見て大に失望の様子なので父君が其のわけを聞かれると

『日本人は皆、軍人だと思つて、今日の午餐には面白い戦争の話など聞かれることを楽しんでゐたのに、此の御客は軍人でないのか?』(續く)

**本會本部も、事務所も移轉**

本年初から スツカリ 花山天文臺へ